

令和2・3年度 神奈川県立学校 第三者評価実施報告書

評価実施校	小田原東高等学校	課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞	課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜実施校＞
カテゴリー名	専門学科高校	課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞	課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜実施校＞
課題1	<p>進路指導・支援を含めた教育活動の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科と総合ビジネス科を併置することの新しく、魅力的な特色を打ち出し、活性化することが必要。 ・アドバンスクラスの設定がどのような効果をもたらしたか、検証していくことが必要。 ・組織的な基礎学力の検証と着実な基礎学力定着の実施が必要。 ・「言語活動の充実」によるコミュニケーション力等の育成における取組の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実や基礎学力の向上など、地道な取組がなされていること、課題はあるとしても、アドバンスクラスが生徒の学びを活性化させているなど、地道な取組がなされていることが評価できる。 ・他方で、そうした取組の効果を検証する取組が弱く、検証をもとに次年度につなげていくことが求められる。検証は、客観的なデータをもとに行われることが望ましいが、難しいことも多く、その場合には教員間の情報共有に基づく課題の検討でも良いだろう。 ・基礎学力の確立は目標にも掲げてあり、進学、あるいは就職においても重要な内容である。生徒へのヒアリングから自宅学習の習慣が定着していないことが見受けられることから、授業内で演習時間を多く組み込む、また事後学習の丁寧なフィードバックを行うなどの必要がある。そのためにも、必修科目に絞りその対応を行うことが必要であろう。 ・「将来を考えるワーキンググループ（WG）」が「教職員から提言」を行うような形で組織され、議論も制服や部活動にとどまらず、スクールポリシーの策定をはじめとする本校の方向性について実質的な議論も始まっている。このWGの取組を進めていくとともに、ここでの議論が企画会議の議題として挙げられる仕組みづくり等につなげていってほしい。 ・WGの活動は、改革のベースとなるものであることから、開催回数を多くすること、1回でも参加できる教員を増やし、多くの教職員が関心を持ち、理解できる改革案の提出が行われることを期待する。 	<p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合ビジネス科単科の場合と普通科を併置した現在を比較すると、4年制大学への進学者が約1.85倍上昇した。これはアドバンスクラス設置により、「朝補習」や放課後の補習等を継続的に実施したこと起因すると考えられる。 ・参加者を限定しない形式で「将来を考えるワーキンググループ（WG）」を発足して、「スクールポリシー」を含めて今後の本校の在り方等を議論する場を設定して職員の見解を吸い上げた。 ・基礎学力の定着を目指し、「数学」や「英語」で基幹となる科目については少人数授業を展開してきた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の大学進学者数がさほど変化していない現状を踏まえ、各学年で実施している「基礎学力診断テスト」の結果から、教科として生徒の現状や課題を把握するとともに、職員会議または職員研修会で学校全体として把握、対応することが必要である。 ・「将来を考えるワーキンググループ（WG）」の開催については単発的ではなく、継続的に実施するとともに、少しでも多くの職員に発言する機会を設定していくことが必要である。 ・少人数授業を展開しているものの、家庭学習の習慣には至らず、課題である。
R3 指標	<ul style="list-style-type: none"> ・講習や説明会の満足度及び進路実現における生徒の満足度について75%以上を目指す。 ・授業において、教科間・科目間の連携を進める。また、「将来を考えるワーキンググループ（WG）」を立ち上げ、本校の方向性について提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色としては、総合ビジネス科と普通科の併置であるが、その魅力をどのように打ち出すかが課題である。いずれの学科の卒業生も、将来は社会に出て仕事に就き、社会での役割を果たすことになることから、総合ビジネス科に置かれている商業科目を両学科の共通選択科目とするなどの検討ができることと考える。 ・普通科が併置されていること総合ビジネス科へのメリットをいかに打ち出すかが難しいという課題がみられたが、将来的には総合ビジネス科の進学希望者においても両学科合同で行う進学対策支援が考えられるところである。その際、普通科の進学実績が高まるとさらによいが、普通科のアドバンスクラスを中心とした進学意欲の高い生徒と総合ビジネス科の生徒がともに進学にむけて交流・学習する機会が相乗効果をもたらすことを期待する。 ・総合ビジネス科、普通科の生徒及び教員同士の学科の枠を超えた交流については、できることから実施していく取組が始められていることが評価できる。そこから、両学科の「ハイブリッド」の素地ができあがっていくことが期待される。期待される素地とは、課題を共有化した教員の議論交流の場であり、生徒にとっては、学科は異なっても、いずれは社会で仕事をするようになることから、「総合的な探究の時間」においてキャリア設計等の内容を扱うなど、両学科共通で学べる内容を検討し実践されることが素地として考えられる。 ・普通科と総合ビジネス科の「ハイブリッド」を生かした取組について、英語等を中心に行うことができるところから取り組んでいく姿勢がみられることが評価できる。 ・また、スクールポリシーの策定に向けて議論がなされており、実際に地道に取り組まれていることを進めるための根拠となるように、策定していくと教員間で教育活動の方向性が共有されやすくなるように思われる。スクールポリシー策定に関連して、ビジネスマナー教育を教育活動の中心に据えることは、当校の強みにつながるように思われるので、今までの指導ノウハウを踏まえ、表現方法も含め工夫が求められる。 ・課題2のR3指標においては、広報活動の視点から指標設定され改善・検討され取組されたが、今後は、学校の将来構想がどう進んでいるかという視点が必要と思われる。その際の指標として、定量的な目標でなくとも、定性的な目標を設定することも考えられる。 	<p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度以降の新カリキュラムにおいては、学校設定科目を設定するとともに、普通科と総合ビジネス科の生徒がそれぞれ商業科目も普通科科目でもを選択できるように、本校としての特色を打ち出すことができた。 ・1学年「総合的な探究の時間」については、年度途中であったが総合ビジネス科と普通科の生徒が交流する場面を設定してディベートを行い、お互いが刺激し合えるように努めた。 ・令和3年度の広報用資料として、学校案内を短期間であったものの刷新して改善を行った点は成果といえる。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合ビジネス科と普通科の生徒の交流に関しては、「体育」の一部及び1学年「総合的な探究の時間」に限定されており、今後の展開については課題である。 ・新カリキュラムでは、同科目でありながら両科間に単位数の違いや実習用コンピュータ等の施設のキャパシティから、生徒の交流場面を設定することが難しい状況で、さらに、同一科目について総合ビジネス科と普通科のクラスを交流ができるように同時展開を試みると、教科の人数が他の普通科より少ないために他学年の授業が展開できないことも課題である。 ・学校案内作成については、これを所管する担当グループが中心となって作成したが、作成上の意図を全職員が共有して誰であっても説明できるようにすることが求められる。 ・検定等の実施については、商業科と普通科職員の交流をとおして、お互いに支援し合っていく取組が必要である。
R3 指標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特徴であるアドバンスクラスとビジネスマナーを学校案内に盛り込み刷新するとともに、学校説明会後にアンケートを実施して満足度について90%以上を目指す。 	<p style="text-align: center;">総括評価(これまでの訪問①～④を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価) ＜評価委員＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は、理念的な目標設定等がなされていたが、ビジネスマナー・ビジネスマインド、基礎学力向上、言語活動の充実、アドバンスクラスの設置など、当校の目玉となる教育活動への焦点化がなされてきた。 ・評価委員は、取組の実質化をキーワードに、実際に実行可能で当校の教育活動を活性化する活動を進めていくことを進言してきたが、取り組めるところから着実に実践が進められている。 ・その際、学校案内の刷新はスピード感を持って行われたことは、高く評価できる。当校の魅力や方向性を教員間で共有する際に、学校案内をその一つのツールとして活用することも考えられる。 	<p style="text-align: center;">総括評価を踏まえた次年度の学校運営に係る改善点および改善方法 ＜実施校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバンスクラスの生徒を対象にした補習を展開しているが、スタンダードクラスの生徒の対応も考えて、生徒の可能性を広げる。 ・学校案内作成については、これを所管する担当グループが中心となって作成したが、作成上の意図を全職員が共有して誰であっても説明できるようにすることが求められる。（再掲）
		総括評価(これまでの訪問①～④を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価) ＜評価委員＞	総括評価を踏まえた次年度の学校運営に係る改善点および改善方法 ＜実施校＞